ＮＰＯ　いしのまきアドベンチャークラブ「学習会」　2006.7.15.

「人間、社会、そして障害者とは
－親に向けての支援の在り方を通して－」・レジメ

阿　部　幸　泰

（注：実際の資料は印刷物ですが、枚数が多いのでここではその印刷物の載っているサイトを記載します。）

Ⅰ：「利用者の自己決定権と支援の関係」
資料１　http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/kibisoukanmosikizu4.pdf

Ⅱ：「障害児をもつ親の受容能力への心情の（仮説）層過程」
資料２　http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/oyasisakuzunyounyu.pdf

Ⅲ：「コミュニケーションの背景情報」
資料３　（ http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/syougaikeamaneteisei.pdf　の資料４）

Ⅳ：支援者とは
①教育（支援）活動（療育、育児を含め）：
「あえて比較せず、生きようとする生命の互いに輔け合いながら、
生きるとはどういうことかを問い続ける活動。－梅津八三－」

「自分は子どもたちに何を説くべきか、それを考えるのが教師である。
それは教師の第一歩であり、最後でろう。－養老猛司－」

②「専門家は、指導や助言以上に、親の不安感を取り除いてください。
親にエネルギーをいっぱい与えてください。
そうすれば親子で前向きに生きていく勇気が生まれます。
それは、障害を治すことと同じくらい、いえ、それ以上にありがたいことです。
－明石洋子－」

③「相手を理解するのでなく、相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築くこと。」

④「人間相手（支援等）の仕事には、ゴールはない。
係わるだけでなく、係わり合い続けること。
知識と技術に裏打ちされた知恵をいかに働かせるかのチャレンジ精神と、
自らを検証する勇気が必要。　←　プロの資質」

⑤「与えられる知識は応用が効かない、求める知識は知恵となる。」

Ⅴ：その他
“Children with disabilities are children, first.”

“ My child is not only mine, but also a person. ”

“Not doing,　But being.”

Ⅵ：質　疑